



熱い、厚い夏…でしたか？

校長 高山 直也

夏休み前、7月号の学校だよりで、ぜひ体験・経験をたくさん積んで「熱い・厚い夏に」と書かせていただきました。さて、子供たちはどんな体験をしたでしょうか。連日猛暑日だったので、家で料理を何種類も作ったよとか、機械を分解してみたよ等、なるほど家中(いえなか)体験もありました。



5年生は、初宿泊の夏季学園を体験しました。箱根の豊かな自然と共に、芸術、文化、そして「協働」生活や自立心も学びました。親元を離れ、友達と過ごす楽しさを味わう中にも、自立や自律を求められ、自分の甘さや弱さも体験します。これが成長の糧となります。

4年ぶりに港区小学校海外派遣団が、9日間、オーストラリアのパースを訪問しました。本校からも2名、全小学校で40名が、美しく雄大な自然、ホストファミリーの温かさ、異国の文化を体験しました。高揚感の中にも、習慣の違いや言葉の壁を前に、焦りや迷いも感じました。



通じないもどかしさ、不安、日本の当たり前が通じない…。逃げ場の無い中、子供たちは乗り越える術を覚えます。笑顔は最高のコミュニケーションツールであること、はっきり意思表示をすること、自分から一歩前に出れば何かが変わることも学びました。

白金小合唱団は、NHK全国学校音楽コンクールの、レベルの高い東京都本選で見事金賞を受賞し、関東甲信越ブロック大会に進みました。表現力を磨く日々の練習の中で、自分の声を磨き、言葉を磨き、周りとのハーモニーを磨き、呼吸までも磨いていきます。その間多くの「できない・うまくいかない」を味わうことも、乗り越えた先にある感動や受賞も、何物にも代えがたい体験です。

本当に暑かった夏ですが、そこで得た「熱く、厚い」体験や経験は、子供の「成長の種」になり、芽吹き、人間の英知・生きる力となって花開きます。体験・経験に無駄なことは何一つありません。2学期もこれからも、私たち大人はその機会をつくり続けていきましょう。

目的意識をもって、相手意識を働かせながら表現できる児童の育成

研究主任 玉木 脩一

例えば、「子供が誕生日にどうしてもほしいものがあり、家の人を買ってほしいとお願いする」場面とします。目的や状況が明確な場面であれば、意欲的に伝えようしたり、「なぜが欲しいのか」「どんな良さがあるのか」等『内容』を工夫したり、また、その良さが伝わる例を出す、聞き手に尋ねながら話をするなど『言い方』を工夫したりするかもしれません。

昨年度の校内研究は『自分の思いや考えを、自信をもって表現できる児童の育成』を主題とし、研究授業を中心に研究を進めました。今年度はさらに焦点化し、『目的意識をもって、相手意識を働かせながら表現できる児童の育成』を研究主題としました。分かりやすく言ったりプレゼンテーション能力の育成です。様々な教科でも仕掛けを凝らし、児童自らが「伝えたい!」と思いを膨らませ、「内容」や「伝え方」を工夫して表現できるような指導の工夫について研究しています。

1学期は2年生と6年生が研究授業を行いました。2年生は「どんぐり公園で見つけたとっておき」を1年生に伝える学習を行いました。自分が見つけたとっておきを、クラスの友達や1年生に聞かせることを楽しみに、表情豊かに伝える姿が見られました。

6年生は箱根移動教室で学んだことを発表しました。各学年の教室で発表をする中で、学んだ多くのことを伝えつつ、思いを引き継いでほしいと発表しました。聞き手の下級生は、6年生が立派に発表する姿を見て、憧れの思いを抱く機会にもなりました。

2学期以降、他学年も研究授業を行っています。また研究授業を中心とし、日々の実践の中でこそ、子供たちが自分の思いや考えを、自信をもって表現することができるよう、学校一丸となって指導していきます。